



2019.10 No.02

まちは劇場

TAKE FREE
ご自由にお持ちください。



KAISYOOOOOO

嘆の長者町

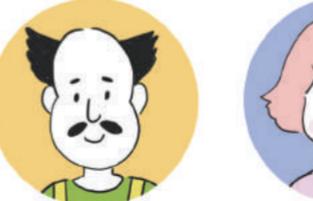
佐藤 ぶらお

● んこ



長者町の、とある喫茶店を舞台に、そこに集まる噂話と噂話が大好きな人々を描いた日常コメディ。

登場人物



店長

喫茶店「リュムール」の店長。自分が町の噂になっていないかいつも気にしているが、全く噂になっていない。

たき

喫茶店「リュムール」で働く噂話に敏感な大学生。マイペースで、店長をいつも振り回している。

作者



佐藤 ぶらお

埼玉在住のデザイナー/イラストレーター。大学時代を愛知で過ごしました。長者町の人達にちょっとでも楽しんでいただけるような漫画を描いていきたいです。よろしくお願ひします。
https://twitter.com/buroo_sato

KAISYOOOOOO 8
8月30日と9月1日の一日間にわたって、オトナの絵本力フェスティバルを開催しました。今回のテーマは「キミの言葉を渝しむ」。同じ絵本の日本語版と原書の二つを並べて、みんなをお迎えしました。子供の頃に親しんだ絵本の中には翻訳された外国の絵本もたくさんあります。その頃には、日本の絵本だけが外國の絵本だとかを意識したことはありませんでしたが読み比べると、言葉のオモシロさで全く新しい発見がたくさんありました。「参考いたいたのみなさんにも「バックデザイン」の違う「モモシロイー」、「日本語版では気つかなかつた原書の諺に気づくことができた」「いつものとは違う絵本の楽しみ方ができる新鮮!」など、読み比べる楽しさを感じていただけました。その中で「日本語翻訳された本で、時代や翻訳者の違いがあるのか見てみたい」というお声をいたしました。いつか日本語訳を味わふ会も開催できただらうだと思いました。また、同時に開催したトークイベント「延藤文庫」と絵本ヨモヤマバナシでは、長年、延藤先生のむごとで師事を受けられた名畑恵さんに、延藤先生が生前、絵本「てくてくバス」を日本に紹介した経緯をお話しいただき、関西弁で聴き、みんなで延藤先生を偲びながら、懐かしさと大笑いの涙、そして汁を流しました。初でのイベントでしたが、たくさんの方にご参加いただきました。ありがとうございました。

次回は、クリスマス前に開催する予定です。ぜひ遊びに来てください、お待ちしています。



錦二丁目のまちづくりに絶大な貢献をされ、全国的にも著名であった故 延藤安弘先生の（都市研究家・地域プランナー）蔵書（絵本含む）や研究資料が「延藤文庫」として、このまちに保管されています。冊数にして5万冊以上。

日本におけるすまい・まち育て研究・実践の発展のため、ライブラリー化に向けて現在基金募集中です！

お知らせ

錦二丁目地区 SDGs ネットワークフォーラム

令和元年10月23日に錦二丁目地区 SDGs ネットワークフォーラムを開催いたします。

国際連合が2015年に全会一致で採択した国際目標「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals:SDGs)は、現在世界のあらゆる国や地域、企業、団体にとって欠かせないキーワードとなりつつあります。この達成には、個々の企業や個人がそれぞれ取り組むだけでなく、それらが互いに連携、協働して取り組むことが必要不可欠です。とりわけ、17の目標のうち「目標11:持続可能な都市とコミュニティ」は、地域の様々な関係者が協力して実施することが必要不可欠であり、地域で連携した取り組みが必要です。

錦二丁目まちづくり協議会では、この地域で活動しているあらゆる企業や団体とともに、これからもSDGsについて理解を深め、互いの取り組みを共有し、地域として一体的にSDGsへの取り組みの姿勢を共有してし、発信してまいります。

◆プログラム

- 基調講演：戸成司朗氏（一般社団法人中部SDGs推進センター代表理事）
- 講演「このまちのSDGs」：名畑恵氏（錦二丁目エリアマネジメント株式会社）
- SDGsに向けた取り組みショートスピーチ
- SDGs旗揚げアンケート
- 錦二丁目SDGs宣言の発表

主 催：錦二丁目まちづくり協議会

共 催：名古屋市環境局、名古屋商工会議所

運 営：錦二丁目エリアマネジメント株式会社

後 援：錦二丁目地区内会連合、長者町協同組合、国際連合地域開発センター、

中部経済連合会、環境省中部環境パートナーシップオフィス、

ESD活動支援センター、中部地方ESD活動支援センター

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

次号の広告枠を募集します。

5cm角に御社名、キャッチコピーなど

ご希望に応じます（一枠2万円）

下記錦二丁目エリアマネジメント（株）まで

一 広 告 サ イ ズ

募 集

KAISYOOOOOO

No.02

次号発行予定 2020年1月「SDGs」（年4回発行）

「SDGs」特集です。環境破壊、貧困、紛争、、私たちの仕事や暮らしの裏側にどんな世界があるかを想像すれば、「本当の豊かさとは?」という課題が一人一人に返ってきます。そんな、個人から地球規模にかかるSDGsを錦二丁目からわかりやすく紐解きます。錦二丁目のSDGs特集を通じて、あなたなりの希望が見つかる、そんな号にしたいと思います。

編集後記：この街に数年住んでみて、近頃は工事の音がよく響くようになりました。でも、この音も今しか聞けない音楽なのかなと思うようになりました。（浅井梨紗）

KAISYOOOOOO



アート・ファーミング総覧会場の中でもメインとなっていた作品。《0=1 -singularity》栗山 齊
種子が芽生える様子が、宇宙や天体の生成プロセスに類似しているというアイデアから作られた。



長者町アートハッカソン参加チームのまちなか展開作品



左：長者町芸農会所巡り 中：ハタケツ 右：イキモコムリによるベジハウスを豊島ビル公開空地に設置



右：イキモコムリによるベジハウスを豊島ビル公開空地に設置

**まち（都市）を畑に見立て、耕し、幅広い文化を育てていく。
面白い発想ですね。**

浅井…そのようにアート・ファーミングのコンセプトが固まりつつある中で、まちの中でどんな都市農業ができるかを考え、自由にアイデア出しをする「アートハッカソン」というイベントも行いました。そこではアーティストをはじめとしていろいろな人たちが参加してチームを作り、いくつのかのアイデアが発表されました。例えば、土の少ない都市の真ん中で、「コインパーキング」に軽トラを停めてその荷台に土を盛って畑にするとか、自転車の力ゴをコンテナにして日当たりの良い場所へ常に移動させながら効率よく野菜を育てるみたいなアイデアもありました。そのとき出した案を実現してみたものや、アーティストたちがそれぞれに自分の考えるアート・ファーミング的なアイデアを作品にしたものなどを展示したのがこの夏の展覧会です。

なるほど。そういう経緯があったのですね。
一方で、まちの人たちはどのように連携していくのですか？

浅井…ミーティングの席には、まちの代表として、滝さん（滝一之さん・滝一株式会社代表取締役



一昨年、閉店した長者町の純喫茶クラウン。
あいちトリエンナーレの展示会場としても親しまれ、会期後もご厚意で店内に大切に残され
てきた多くの作品たちを1日限りですが、一般公開しました。

中段下：壁面に残る作品
《マクキンギプラン・クラウンの樹》浅井 裕介

下長者町内会長）にも毎回参加していただき、まち側からの意見も出していました。滝さんはこれまでもまちで活動をするアーティストたちは数えきれないほどの協力をいたいてきました。僕個人としても、滝さんがいたからこそ、まちの人と深つながることができたと思っています。僕がこのまちで活動を始めたのが2012年、長者町にトランジットビルができた年でした。僕自身、ちょうど大学卒業のタイミングで、卒業後の活動拠点として、2度目のあいちトリエンナーレの会場となることが決まっていた長者町ならいいんじゃないかと。当時はただそこだけに魅力と価値を感じてアトリエを構えたので、自分自身、まちの人になったという意識はまったくありませんでした。しかしその後、名畠さんなどの紹介で滝さんと出会い、一気にまちの人たちとの関わりが広がりました。滝さんが間に入ってまちと僕らとを繋げてくださると、物事が電光石火のようにすごいスピードで進み、どんどん決まっていくんですね。最初に感じたその驚きは今も忘れられないですね。滝さんがいてくれなかつたらできなかつだらうと思うことがたくさんあります。今回のプロジェクトも、僕らをずっと見守ってくれている滝さんが中心となつて尽力してくれたからこそ実現できたのだと思います。僕自身、現在ではこのまちに住まいを移して、いまやすっかりまちの人になりました。まちの中で起きている出来事やいろいろな活動にも、いつの間にかどっぷり巻き込まれたりしています（笑）。でも、そこから学ぶこ

とは多いですし、アートと関係のないことであつてもひとつ自分が自己的ことと感じられるので、そういうことも楽しみながら暮らしています。はじめはまちの「外の人」だと感じていた自分が、いつしか「中の人」になった。まちと人がつながるということを感じるのは、そういう意識の変化が何よりも大きいのではないかと思います。

展覧会を終えての感想、また今後の展開は？

浅井…そうですね。入場を有料にしたこともあります。本当にお客様が来てくれるのだろうかとか不安もありましたが、思っていた以上にたくさんの方が来場してくれたのでよかったです。中にはトリエンナーレと間違えて見に来てくれた人もいましたが（笑）。ビルは6階まであるのですが、ボリュームがあるにも関わらず、時間かけてじっくり見ていってくださる方が多かったです。アンケートの感想にも「自分の生活を面白がるタネをもらいまして」とみたいな声もありました。そのように何かを感じて各自の日常に何かを持ち帰つてくれた方がいたのであれば、やつてよかつたなと思いますし、僕らも自信につながりますね。

展示は一旦終わり、ひとつの区切りとなります。長者町スクール・オブ・アーツとしてはこれがスタート。これからも常にまちの中で成長しています。できればその成長を可視化できる仕組みや活動は続けていきたいですね。



2010年の初開催以来、あいちトリエンナーレのまちなか会場として数多くのアーティストらの創作活動を見守り、作品展示への協力や来場者への受け入れを担ってきた長者町は、3回目（2016年）となる前回をもってその役割を終えました。そんな長者町を中心とした錦二丁目界隈で、今年立ち上がった新しいプロジェクト「アート・ファーミング」。コンセプトは、まちとアートを農園に見立て、さまざまな文化を育んでいくというもの。始まったばかりの活動から見えてくる、まちの「いま」と「これから」について、企画に携わるアーティストの浅井雅弘さんに聞きました。

この夏開催された「アート・ファーミング」はどんな狙いで行われたのですか？

浅井…会期中はメイン会場となった綿覚ビルと、現在、錦二丁目再開発に向けて工事が進む現場の工事壁などを使って主に現代アートの作品を展示しました。でも、そもそもこの「アート・ファーミング」はアート作品の展示だけを目的としたものではなく、もっと幅広い普遍性と継続性を目指して始まったプロジェクトなんです。まちでは以前から、僕らのようなアーティストが個人で絵画教室をやっており、小規模のプライベートスクールのよつなものがいちトリエンナーレがなくなるタイミングと重なったのもあって、それに代わるものとして、ここから文化的な何かを立ち上げたいという思いが大きくなっています。これは、どこかにひとつ大きな拠点を持つわけではないけれど、例えばまちの中にある空き物件などを使わせていただきながら、点在する文化的な活動をリンクさせて遊びの場を設け、長く続けていくというものです。そこにはアートだけでなく、写真や詩などさまざまなものがあります。中には「農業」があつたっていいのではないか、といふ意見もありました。そこからさらに、僕らのまちは都会の真ん中にあるので「都市農業」というキーワードが出てきた。「アート・ファーミング」という言葉は、そんなふうにコンセプトがみんなの間に共有されていくプロセスの中から自然に生まれたものです。コンテンポラリー・アートに特化したものではなく、「ファーミング」には広い意味で文化的なものを創造する人たちを育てていくそういう意味が込められています。

上：7番街区の工事壁に展示された作品
《耕作されたイメージ》浅井 雅弘
下：展覧会場1階でインタビューを受ける

長者町に出現したキュウリのビル

アーティスト（AMRメンバー） 浅井 雅弘

思い込みや見間違いなど、視覚の虚構性によつて生じる曖昧な存在感をテーマとし、見た目と事実との間に矛盾をはらませる作品を制作してい

る。「あいちトリエンナーレ2013」長者町現代美術企画コンペ（2013）や、長者町通り宮本ビルや岡地株式会社での企画など、長者町での展示も多数。1985年生まれ。長者町在住。



長者町おじさん モノ語り



郷愁を誘うブリキのおもちゃ

私のおもちゃコレクションのほとんどがブリキ製なんですよ。前回のビュイックもそうだったね。旅先で偶然立ち寄った店でふと目に入ったものなど、何年もかけて集めてきたのでひとつひとつに思い出と愛着があって、一番のお気に入りと言っても選ぶのがなかなか難しい。けれど中でも特に大事にしているものといえばこれですね。日本製の乗り物たち。実はブリキのおもちゃは世界中にあるんです。しかし日本製のものはその精巧さが他とは比べ物にならないくらい素晴らしい、当時、日本にやってきた外国人たちも目を見張るほどだったそうです。ここにあるのはおそらく明治時代、1900年ごろのものだと思います。軍艦や屋形船、自動車など、描かれている絵をよく見ると日本髪の女性とシルクハットの男性が一緒の車に乗っていたりして、当時の世相や文化がよくわかって興味深いですよ。何より、絵が繊細で美しいですね。この軍艦は買った時からもうだいぶ錆びついていて車輪もひとつ取れてしまってた。それでも数万円かそれ以上はしたと思います。もっと程度が良かったら百万円くらいはするかもしれないな。

コレクションを始めたきっかけはアメリカ時代だったけれど、その後、帰国してからも少しずつ集めて今では数え切れないくらいになってしまった。ブリキのおもちゃに惹かれる理由？それはね、なんといっても子供の頃のことを思い出すからですよ。僕らの子供時代、おもちゃといえばブリキ製のが圧倒的に多かった。男の子だし、乗り物のようなメカが好きだったので特にね。僕らの世代にとってブリキの手触り、風合いにはなぜか郷愁を誘う魅力があるんですよ。今ではプラスチックや塩ビなどさまざまな素材のおもちゃがたくさんあるけれども僕にとってはなんとなく趣が足りない。心惹かれるのはやはりこれなんです。「ブリキのおもちゃ」という言葉を含めて魅力を感じてしまう。

売っているお店の主人とも話しが弾んだりね。そういう出会いもまた楽しみですね。

N2 - DASHBOARD

【本重筋×桶屋通り（現桑名通り）の歴史】

名畠.. 先生とは名古屋市北区の歴史文化再発見事業のお仕事でご一緒した以来ですね。ご無沙汰しております！

名畠.. はい。どうしても知りたいことが。昔このあたりは大忽という貸本屋や芝居小屋があつたと聞きます。まちの人の短歌によると、本重筋×桶屋通り（現桑名通り）とありますから、現在りそな銀行やミリオン座があるあたりなんですよね。今じゃオフィスビルが目立つ地域なので、ミリオン座が移転して来てくれた辺りが、元は芝居小屋だつたかと思うと、ちょっとドキドキします。

「新守座」という芝居小屋の歴史
守座」と書かれていますね。

伊藤 .. ざーっと調べてみました。明治6年開業で、名古屋有数の大劇場として有名な歌舞伎俳優などが出演していましたが、御園座などがでてきてランクが下がったようです。劇の他に活動写真の上映を早い時期（名古屋で2番目）を行い、貸会場として演説会や大会にも使われてきた輝かしい歴史もあります。

名畑 .. なんと！活動写真！

伊藤 .. 大正14年に全焼した記録がありますが、昭和4年の住宅地図には記載があるので、再建されたのではないかと思います。

名畑 .. 明治・大正は本重筋の北入りの間口でした가、昭和4年の地図だと桶屋町側の西入りになっていますね。



明治 11 年地図 (伊藤氏所有)

伊藤… 昭和9年には名古屋劇場へ改称したようです。資料が中々ないので、裏付けがとりにくいいのですが、今のうちに記憶のある方がいれば、話を聞いておいたほうがよさそうですね。

名畑.. 今回はお忙しいところ、沢山教えて下さりありがとうございました。これから、このまちはマンション建設によつて住む人が増えていきます。暮らすまちになつていくとき、やっぱり文化があつて刺激のあるまちだといいな、と思います。歴史にヒントがあるな、と、あらためて思いました！

伊藤.. また歴史をひもとく情報交換しましよう。

伊藤正博（堀川文化探索隊）
元名古屋市職員で、堀川などの環境整備や啓発業務に従事。平成13年につくられた堀川文化探索隊で、堀川や周辺地域の歴史や文化を調べてPRしている。